

発行 日本地域福祉学会

〒160-0008 東京都新宿区三栄町8 森山ビル西館 401

TEL 03-5363-1518 FAX 03-5363-1519

URL <http://www.soc.nii.ac.jp/jracd/> E-mail chiiki-g@jt2.so-net.ne.jp

発行人：牧里每治 編集人：和気康太

CONTENTS

グローバル時代の地域福祉研究 の発進	1
名誉会員紹介	2
総会報告	3
日本地域福祉学会 第8期役員紹介	6
地方部会の活性化にむけて —活動助成制度の変更—	8
第8期編集委員会発足	8
日本地域福祉学会第22回大会 を終えて	9
第5回「日本地域福祉学会地域福祉 優秀実践賞」	10
第6回地域福祉優秀実践賞の推薦 にあたって	10
新入会員紹介	11
INFORMATION・編集後記	12



グローバル時代の地域福祉研究の発進 ——第4代会長を拝命して

日本地域福祉学会第8期会長 牧里每治（関西学院大学）

このたびの第22回本学会総会にて第8期の会長として承認いただき、2010年度までの3年間、第4代目の会長として着任することとなりました。約1,700名の会員の皆さまを代表するには浅学非才の身にとりましては、かなり荷の重い大任です。また、初代会長に故岡村重夫先生を冠し、第2代会長、三浦文夫先生、第3代会長、大橋謙策先生の後を継ぐこととなり、その重責に堪えうるのか、いささか不安でもあります。地域福祉なる分野を学問として端緒を切り開かれた故岡村先生は申し上げるまでもなく、社会保障・社会福祉とは相対的に独立する研究領域として地域福祉を確立させた三浦先生、さらに1990年代以降の新しい地域福祉のうねりのなかで本学会をリードしていただいた大橋先生たちの後塵を拝して、私になにができるのだろうと逡巡するばかりです。思えば、本学会の設立以来、大橋先生とともに下働きとして学会活動を支えてきたご縁と、次の世代への地域福祉研究のさらなる継承進化と会員皆さまの日本地域福祉学会の飛躍的な発展への思いが私に大役を授けたのかもしれませんが。推挙して下さった第8期理事会の皆さまの熱い期待があること、日に日に認識を改めております。身に余る期待ではありますが、微力ながら本学会のために挺身而出してまいりたいと思います。

本来であれば、会長マニフェストとして任期期間で達成しうる目標を明示すべきところなのでしょうが、なにぶんにも力不足はいなめませんので、決意表明を就任挨拶に代えさせていただきます。当面、歴代会長や役員の方々の先輩諸氏が切り開き、敷いて下さった伝統ある本学会の路線を継承すべく、そのルールの上を新しい理事会は走ることでありますが、任期満了までには学会第4世代の新しいカラーが出せるように努めてまいります。

さて、地域福祉にかかわる社会経済環境をめぐっては著しくその厳しさが叫ばれています。周知のように資金、情報、人材など経済・社会のグローバル化が急激に進行し、一国福祉国家主義では年金、医療、介護などどの制度をみましても先行き不安感は拭えない状況に取り囲まれています。このような世界経済を巻き込んだ今日の日本社会にあって地域福祉にかかわる政策や実践がいかほどの問題解決効果を期待できるのか私たちは難しい局面に立たされています。国内問題に眼を転じましても減少しない自殺率、若者のニートや

引きこもり、ワーキングプアの増加など格差社会が引き起こすとされる命と暮らしの問題が露呈してきています。地方分権、地方自治と叫ばれ続けてきましたが、夕張市財政破綻に象徴されますように地方自治体の体力も気力も弱りはてています。市町村合併など苦肉の策ともいえる地方自治体の行財政力強化も決して功を奏しているとはいえません。

産業経済の空洞化、人材の国外流出、金融の国際化などグローバリゼーションが引き起こす問題と日々の暮らしの困難と命と人権にかかわる地域福祉の課題は無縁ではないと考えています。介護労働の国際化や滞在外国人の増加などこれからの少子高齢社会も多文化共生社会を目ざさなければならなくなるでしょう。地域福祉研究を専門とする本学会会員が地方自治体や地域社会で起きている生活問題に立ち向かわなければ誰が向き合うのでしょうか。グローバルな視点をもちつつ着実に確実に地域で起こる社会問題にローカルに対応するローカリズム実践がますます求められてくるのではないのでしょうか。早いところは改訂作業に入る市町村地域福祉計画の見直し、基本的生活圏である小地域社会の活性化と住民自治の再認識、コミュニティ・ビジネスや社会起業家の再評価、そして地方自治体を基盤に展開するソーシャルワークの統合化などなどグローバルに取り組む研究課題は山積しています。グローバルとは古くて新しい造語ですが、グローバルな視点とローカルな実践を志向する複眼的な姿勢ともいえます。これまでにない社会のあり方、これからの地域社会の枠組みを見つけ出し実践していかなければならないでしょう。先人たちの取組みを再発見・再学習するとともに知識社会・情報社会の時代を生き抜く新しい地域福祉実践のシステム開発をイノベーションしなくてはなりません。温故知新ならぬ「復古創新」の立ち位置からグローバル時代の地域福祉を切り拓いていきましょう。

最後になりましたが、第8期理事会は一丸となって開かれた日本地域福祉学会を目ざしたいと思います。本学会会員のみならず会員以外の市民を含めたステークホルダーにも地域貢献できる学会活動を展開したいと思います。非力な我われに会員の皆さまの惜しみのないご支援、ご協力をお願いをもちましてご挨拶とさせていただきます。

日本地域福祉学会名誉会員として 新たに2人の方々を承認

京都の同志社大学で開催された第22回大会の中で、6月14日に執り行われた本学会第22回総会において、本学会の名誉会員として、新たに岡本栄一会員、田端光美会員のお二方が推挙され、満場一致で承認されました。

名誉会員制度は、本学会規約第9条に基づき、日本地域福祉学会の社会的評価向上に多大に貢献もしくは本会の運営・発展に特段のご尽力をいただいた、75歳以上の会員に敬意を表するためにこの称号を贈るべく定められています。



岡本 栄一



田端 光美